
ダチと世界と赤いチェックの街並み

紅眼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダチと世界と赤いチエツクの街並み

【Nコード】

N0825BA

【作者名】

紅眼

【あらすじ】

仙台という街…世界とのつながりをもつ学園…カラーギャングの真似事…喧嘩…オタク…恋…そして友情…
友は力…繋がりは力…その力が街に広がり、国をに名を広め、やがて世界と繋がっていく…。

…

デュラララ好きな作者が作った、オリジナルではあるがデュラララからヒントを得た作品です。受験生故更新不定期です。

一話一話が短めなので読みやすいはずです！

意見、批判、アドバイス等いただけると嬉しいです！

筆記試験（前書き）

よろしくお願ひします！

意見などよろしくです！

筆記試験

仙台の街中の一つの建物、静けさの包む中、えんぴつの音だけが鳴り響く…

カリカリ…カリカリ…

…

『あー、わっかんね…』

現在、受験中。頭が完全にショートしてるのは…

「雪村 零矢」

黒光学園の入試、この地域では中の下くらいのさほどアタマの良くない高校…だが…

『なんだこれ…国語はできたの…でももうウダウダ言ってるかねえ…すでに英語の一文は確定だし…つっても数学なんかやってないわチクショー!!俺の頭は算数で止まっているんだ!!』

なんだか威張れない事を心の中で叫んでいる…。

『なんだこれ？わっかんね…よしっ、神様、私に力を…』

そう心の中で念じ、六角鉛筆をころがす…ころがす…ころがす…

当然、六角鉛筆は六面しかないわけで、数字も6までしか出ないわけで、これは数学なわけで、7・8・9といった数字を使わなきゃ答えが出ないわけで…。

雪村の入試、筆記試験は散々に終わった…

入試が終わり、それぞれ帰路につく。その中でも一段と暗い顔をしている雪村

『ゆっきー、どうだったー？』

同じ中学の「水流 青宗」がわかりきったことを聞いて来る。

『もうダメだ…アタマじゃこの高校にははいれねーよ…』

そう、雪村の知能ではこの高校に入る事はできないだろう。

『俺もだー、もうあれにかけるしかないよなw』

…この二人はお互いに筆記の試験で受からない。そうわかっていた。
でも、この高校にはもう一つの試験があった…

『…そうだなっ、俺らは次で頑張るんだもんな!』

彼らが頼りにしているものは…

黒光学園特別入試制度…

アピール面接制度…

アピール面接制度

筆記試験から2日後、雪村と水流はふたたび私立黒光学園に向かい歩いていった。

「アピール面接制度」…

受験で行う面接はもちろん、自分はどんな人かを知ってもらうための、いわゆるアピールの場である。

しかしこの黒光学園での面接はちょっと変わっている…

まず、受験者が「何」をやるのか、またその時間を提示しておく。そして面接当日、その「何」…特技などを披露し、それについて面接官が質問をしていく…。

この面接での「何」は何をやっても自由…これがこの面接でのポイントだ。

一発芸をしたって良いし、歌を歌っても良い。オタクな自分の趣味のフィギアについて語っても良いし、喧嘩が強いです…で学園側が用意した相手をボッコボコ…というのも過去に何件かあったという。

2日ずらされてるのは、休みに入っているから…つまり、他のバンドのメンバーを誘ったり、コントで漫才しても構わないわけだ。

この面接は時間も決められてない。三十分までなら自由である。

この、いわゆるアピールタイムが終わったあとに五分間の面接がある。

なぜそれを行ったのか？今のどこが面白かったのか？その価値はどれ位なのか？どれ位練習したのか？なぜそんなに強いのか？…

こんな質問に答えて終了…簡単なようで難しいのである。

これらの審査の仕方は門外不出なのだとか…。

実はこの高校、筆記の試験は試験全体の三割という普通の高校ではあり得ない割合で試験をしている…。

アピール面接制度は残りの七割、つまり頭の悪い人……雪村や水流でもこの面接次第で受かるということである。故に彼らはこの「アピール面接制度」にかけていた。

少し目立つ…ちょっと違うオーラをはなっている二人……

袖口からチラチラ見える真っピンクの時計。
歩きながら、棒付きの飴チュ　パチャ　プスを舐める雪村…

雪村『あー、何だか緊張してきたよー。』

やや形状がラバーソールに近い真っ黒な靴。
春なのに、黒いダツフルコートを着て歩く水流…

水流『俺もだー、でも、やるしかねーよなっ!?!』

雪『そうだなっ! まあ、トチんなきゃ誰にも負けないだろうっし?!』

水『そのとーりー! ほんじゃ、行きますかあっ!』

二人は黒光学園に乗り込んだ。

アピール面接制度（後書き）

感想、意見をお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0825ba/>

ダチと世界と赤いチェックの街並み

2012年1月4日01時52分発行